



一般財団法人 鹿児島陸上競技協会
理事長 大村 一光

新年あけましておめでとうございます。

理事長に就任し、2年を迎えようとしていますが、この間新型コロナウイルスの影響を受けながらも県内ほとんどの競技会を大きな問題もなく開催することができました。改めて審判員及び選手のみなさまのご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、競技面ではかごしま国体へ向けて多くの選手たちが活躍してくれた年でした。特に競歩については男女高校生が8月にコロンビアで開催された世界ジュニア陸上大会に日本代表として出場し、女子において見事2位に入賞するという快挙でした。また6月の日本選手権や8月の全国高校総体などでも多くの選手達が優勝をはじめ入賞を果たしました。さらには10月に開催された栃木国体では陸上競技において49年ぶりに7位入賞するなど、2022年の集大成に相応しい大会となりました。記録の面でも目覚ましいものがあり、女子5000mWのU18日本新記録をはじめ、県新記録が9種目（男子4種目、女子5種目）、県高校新記録が10種目（男子6種目、女子4種目）において樹立され、かごしま国体へ向けて起爆剤となったように思います。今年は更に良い成績が達成できるよう指導者の皆さまの熱意あるご指導をお願いいたします。

一方、競技運営面においては、昨年8月に九州選手権大会、9月には九州マスターズ大会を開催し、国体及び障害者大会を想定した審判業務に携わっていただきました。トラブルや豪雨による緊急の日程変更など余儀なくされましたが、無事終了できたことは審判員の皆さまにとってもかごしま国体へ向けて大きな自信になったかと思えます。個人的に昨年栃木国体を視察させていただきましたが、大会運営を視察して本県も決して引けをとらない審判技術を有していると確信できました。本年は、通常大会に加へ、5月にかごしま大会（障害者大会）のリハーサル、6月の南九州高校総体などを開催し本番を迎えます。技術向上やルールの最終確認などよろしく願いいたします。

さらには、長年にわたり本県陸上界を牽引して来られました前村悟氏が昨年11月に瑞宝双光章を受章されました。教育現場において多くの優秀な選手を輩出されてきたことに対する受章であると伺います。協会として盛大にお祝いできなかつたことは誠に残念ですが、この場を借りて改めて祝意を表したいと存じます。

最後に、本年はいよいよ10月に白波スタジアムにおいて全国の方々をお迎えし、かごしま国体及びかごしま大会（障害者大会）が開催されます。昨年の”On Your Marks “からいよいよ大会へ向けて今年は”Get Ready(Set) ”の年となります。2023年がみなさまにとりまして実り多き年となりますよう、また協会にとってかごしま国体、かごしま大会（障害者）が成功裡に終了し、歴史の1つとして刻めるよう祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。